

平成 16 年度

ヨーロッパに 行ってきました!!



ヨーロッパ研修旅行参加者感想文

● 旅 行 日 程

日次	月/日 (曜)	都市名	時 刻	交通機関	行 程 内 容
1	2005年 2/23 (水)	東京 発 ロンドン着	10:20 14:45	JL403 専用車	日本航空にて空路、ロンドンへ 専用車にてホテルへ <ロンドン泊>
2	2/24 (木)	ロンドン ケンブリッジ ロンドン	午前 夕刻	専用車	午前：市内研修 (①ロンドン塔②国会議事堂③ビッグベン④ウェストミンスター寺院など) 午後：日本大学提携校ケンブリッジ大学・ペンブルックカレッジ訪問（現地学生との交流） <ロンドン泊>
3	2/25 (金)	ロンドン			終日：自由研修 大英博物館や、バッキンガム宮殿など歴史と伝統のロンドンをご満喫ください。 OP：シェークスピアの足跡を訪ねる <ロンドン泊>
4	2/26 (土)	ロンドン発 ローマ着	10:30 14:00	専用車 BA554 専用車	専用車にて空港へ 空路、ローマへ 到着後、ローマ市内研修 (①サンピエトロ寺院②コロッセオ③フォロ・ロマーノ④トレビの泉など) <ローマ泊>
5	2/27 (日)	ローマ ナポリ ポンペイ ローマ	午前 夕刻	専用車	ナポリ・ポンペイ遺跡一日研修 ヴェスビオ火山の噴火によって灰に埋まった古代都市ポンペイの壮大な遺跡群と世界三大美港として有名なナポリを訪れます。 <ローマ泊>
6	2/28 (月)	ローマ			終日：自由研修 オードリー・ヘップバーンの『ローマの休日』の舞台や世界遺産の街を自由にご散策下さい。 <ローマ泊>
7	3/1 (火)	ローマ アッシジ フィレンツェ	午前 夕刻	専用車	専用車にてフィレンツェへ 途中、聖フランチェスコ修道会の聖地である宗教都市のアッシジを訪れます。 到着後、フィレンツェ市内研修 (①花の聖母寺院②シニョーリア広場③ベッキオ橋など) <フィレンツェ泊>
8	3/2 (水)	フィレンツェ			終日：自由研修 ルネッサンス期を代表する豪商メディチ家のコレクションのあるウフィツィ美術館など歴史的見どころがいっぱいです。 OP：ピサの斜塔半日研修 <フィレンツェ泊>
9	3/3 (木)	フィレンツェ ボローニャ ヴェネチア	午前 夕刻	専用車	専用車にて水の都ヴェネチアへ 途中、ヨーロッパ最古の大学『ボローニャ大学』を訪問します。 <ヴェネチア泊>
10	3/4 (金)	ヴェネチア			終日：自由研修 いくつもの運河にかこまれ、アドリア海の女王と呼ばれる美しい中世の雰囲気をそのままに残す街並をお楽しみ下さい。 <ヴェネチア泊>
11	3/5 (土)	ヴェネチア ヴェローナ ミラノ	午前 夕刻	専用車	専用車にてミラノへ 途中、シェークスピアの『ロミオとジュリエット』の舞台であるヴェローナを訪れます。 到着後、ミラノ市内研修 <ミラノ泊>
12	3/6 (日)	ミラノ			終日：自由行動 壮大なゴシック建築物ドゥオモや巨大なアーケード、ピットリオ・エマニエーレⅡ世ガレリアなど歴史と融合した流行の街をご散策下さい。 <ミラノ泊>
13	3/7 (月)	ミラノ ルツェルン	午前 午後	専用車	専用車にて国境を越え、スイスの古都ルツェルンへ 到着後、自由研修 ルツェルン湖畔からロイス河周辺を散策してみてください。穏やかな河の流れが古い街並に美しく調和していて、まるで一枚の絵画を見るような風景が広がります。 <ルツェルン泊>

日次	月/日 (曜)	都市名	時 刻	交通機関	行 程 内 容
14	3/8 (火)	ルツェルン ユングフラウ	午前 夕刻	専用車 登山列車 専用車	ユングフラウヨッホ登山研修 アイガー、ユングフラウ、メンヒを仰ぎ見ながらの登山列車の旅は迫力満点です。ヨーロッパの頂上からの大氷河の曲線やまぶしく輝く雪原などの自然の醍醐味をご堪能下さい。 <ルツェルン泊>
15	3/9 (水)	ルツェルン ミュンヘン	午前 夕刻	専用車	専用車にてミュンヘンへ 途中、ルードヴィッヒⅡ世の夢の城ノイシュバンシュタイン城を見学します。 <ミュンヘン泊>
16	3/10 (木)	ミュンヘン	午前 午後	専用車	午前：ミュンヘン市内研修 (①ニンフェンブルク城②ドイツ博物館など) 午後：自由研修 夕食は有名なビアホールにて楽しみましょう。 <ミュンヘン泊>
17	3/11 (金)	ミュンヘン発 パリ 着	09:25 11:10	専用車 AF1423 (予定) 専用車	専用車にて、空港へ 空路、パリへ 到着後、パリ市内研修 (①ノートルダム寺院②セーヌ河岸③シャンゼリゼ通り④エッフェル塔⑤凱旋門など) <パリ泊>
18	3/12 (土)	パリ			終日：自由研修 ルーブル・オルセー・オランジェリーといった美術館めぐりなど、パリの休日は見どころがたくさんです。 <パリ泊>
19	3/13 (日)	パリ			終日：自由研修 OP：ヴェルサイユ宮殿半日研修 夕食はさよならパーティー（セーヌ川ディナークルーズを企画） 学生の皆さんで企画をして盛り上げましょう。 <パリ泊>
20	3/14 (月)	パリ 発	18:05	専用車 JL406	出発まで終日、自由研修 (お部屋のご利用は12:00までとなります) 専用車にて空港へ 日本航空にて空路、帰国の途へ <機中泊>
21	3/15 (火)	東京 着	14:00	航空機	通関後、解散 おつかれさまでした

第1班

第2班

第3班

小川 章太
磯 丈久
佐藤 拓弘
高田 晃
相葉 智恵
大森 由佳
尾島千穂子
相澤 志穂
松本 蓉子
南 佳央里
石本知佳子
佐藤みなみ
福田 里奈
新行内友美

平本 祥啓
椎木祐一郎
滝山 優
傳田 直子
川島 久未
徳光 洋祐
橋本 浩一
沓掛 由花
津久井香苗
河村 知佳
益戸 綾美
松本 彩
守谷由佳理

萩原 明子
高森真由子
寺村優貴子
大林 由佳
寺澤 出
板坂 壽彦
矢島 薫
三上恵理菜
中田 久美
黒川 優
岡庭 藍子
田中 鮎子
清末 福人
山崎 謙介

第4班

第5班

第6班

池田 玲子
清水 優子
花村 恵
松山 迪香
宮尾 岳宏
松尾 美季
石川 絵理
御子柴愛美
伊藤俊一郎
山崎 嶺
矢野祐美子
原田 堯

坪田 京子
齋藤 美帆
望月亜希子
梶原 麻代
岩瀬 美香
松本 悠
梶原亜希子
高野 晶代
黒澤富裕貴
武藤真紀子
水野恵理子
村上 倫代
伊藤 治雄
興梠賢一郎

大竹 敦子
清水 友子
八木亜季子
福島 陽人
田内あづさ
宇佐美恭子
成舞 藍
春山 良子
小松 寛之
神田 望美
大橋ゆりか
木練奈菜美

医 師 永岡 賢一

添乗員 大場 繁雄, 泉本 恭子, 上野 友子, 羽室 貴美

引 率 森田, 安井, 堀江, 高橋, 飯田, 谷口

ヨーロッパ研修を終えて

石本 知佳子

今回、このヨーロッパ研修旅行に参加して本当によかったです。私は、今回が初海外だったので、最初は期待よりも不安のほうが大きかったです。けれど、いろいろな場所を回って、街並みや建物、芸術作品など日本にはないようなものを見ることによって、今度はどんなものが見れるんだろうという期待がどんどんふくらんでいきました。特にイタリアは、5カ国の中で一番長く滞在した国で、しかもいろいろな都市に行けたので、有名な建物や場所、芸術品にもたくさん触れることができ、たくさん感動させてもらいました。今まで、こういうものにあまり関心がなかった私ですが、今は、もっといろんな国に行って、その国の芸術的なものに触れてみたいと思うようになりました。

このヨーロッパ研修旅行を通して、改めて日本の良さを感じました。フランスやイタリアなど治安の悪い国で、ジプシーやスリを実際に自分の目で見たときは、なんて日本は安全な国なんだろうと、つくづく思いました。また、いろんな国の人と交流できたこともよかったです。相手のほうから、自分の知っている日本語を使って話しかけてくる人や陽気に声をかけてくる人がいてフレンドリーだなと思いました。だけど、私は英文学科なのに思うように英語を使えなくて、それがとても悔しかったです。

今回この旅行で多くのことを学んで、すごく良い体験ができたと思います。3週間で5カ国なんてめったに行けません。また機会があったら行きたいと思います。

ヨーロッパ研修旅行

磯 丈久

ヨーロッパ研修旅行

行く前はこれほど良い旅行になるとは思ってませんでした。

言葉や習慣の違い、また食事などが合わないのではないかという不安が、特にヨーロッパにあったので、正直不安でした。

しかし、行ってみると、意外にそうでもありませんでした。

言葉は、特にイタリア語やドイツ語、フランス語はわかりませんが、しかしその地で時間が経つにつれ、違う言葉についての興味がわいてきました。

英語は、なんとなくわかりますが、イタリア語などは、本当になんて言っているのかがわからなくて困りました。

しかし友達になった仲間と笑いながら学んでいくうちに、片言ではありますが少しずつ覚えて活用するようになりました。

あまり仲間を作るのは得意な方ではないので、一人での行動が多いだろうと、行く前は思っていましたが、些細なことから話すようになり、快適に楽しく、最高の思い出作りには欠かせない仲間ができました。

食事は、特に問題ありませんでしたが、お米料理は日本が一番だということを再確認しました。

今回の旅行で一番期待というか関心があったのは遺跡でした。

住んでいるところが浅草という観光地に住んでいる私としては、特に良かったのはヴェスビオ火山の噴火によって灰に埋まってしまった古代都市ポンペイでした。

教科書などである程度想像はしていましたが、それを遥かに超えたすばらしく壮大な遺跡でした。

ポンペイ遺跡からはヴェスビオ火山が綺麗

に見ることができ、火山ということを忘れさせるくらい綺麗な火山でした。

あまり興味の無かったフランスのオペラ座では、装飾のあまりの綺麗さに驚き、一人で行っているのを忘れるくらいはしゃいでいました。

そのお陰で、日本に帰ってきてからすぐにオペラ座の怪人の映画を見てしまうほどでした。

あと感動したのは、大雪の中歩いて回ったヴェネチアです。

サン・マルコ寺院とサン・マルコ広場、アドリア海は忘れられません。

出会った仲間4人と慣れない地で、地図を見ながら歩きました。

歩いている間、いろいろな町並みに触れたこと、今でも鮮明に思い出せます。

今回の研修旅行、大変楽しく過ごせたのは、同行してくださった先生方や添乗員の方々のお陰です。

困ったときや不安なとき、またどこで食事を取ればいいか、どこでバスや電車の切符を買えばいいかなどの細かい説明もしてくださいました。

大変充実した研修旅行でした。

ありがとうございました。



ヨーロッパ研修旅行の感想

大森 由佳

ヨーロッパに行って感じた事は多々あります、長々と文章にするのは苦手なので行った先々で印象に残った事を短くまとめました。

ロンドン…大英博物館、ずっと行きたいと憧れていた所の1つ。今回行けたので嬉しかった。しかもタダで見放題！イギリスの人が羨ましい。

ローマ…街中が遺跡のような所でとても興味深い。テルミニ駅前で奇声をあげたジプシーの子供達に追いかかけられた。…何て言ってたんだろう。

ポンペイ…高度なシステムを持った都市が一夜にして灰に埋まったという史実は驚くべき事で、遺されたモノから昔を知るというのは面白いと思った。

アッシジ…静かで美しく澄んだ清浄な空気の流れる所、こういう所を聖地と言うのだと感じた。

フィレンツェ…夕暮れ時が美しい街だと思った。今回行った中では一番この街並みが好きかも。

ボローニャ…専門書の沢山並ぶ本屋や街角の小さな売店に売っている知育の玩具を見て、アカデミックだなあと感じた。

ヴェネチア…水路と路地でできた迷路のような街だと思った。広場で雪合戦を始めた子供達がとても微笑ましかった。

ヴェローナ…初めて読んだシェイクスピアはロミオとジュリエットだったなあと思い出した。

ミラノ…ドゥオーモ前で写真を撮っていた時にジプシーのおっさんに脇腹を触られたのがかなりショックだった。

ルツェルン…ドイツ語ができなくて困ったけ

ど現地の人達は親切で感じが良かった。ユングフラウ…自然は雄大で自分は卑小だと改めて感じた。スキーに来ていたおじいさんを見て自分も頑張ろうと思った。ミュンヘン…ソーセージとビールが美味しかった。それからカフェで飲んだホットショコラも。パリ…ルーブル美術館、ずっと行きたいと憧れていた所その2。住み着いてもいい…と言ったら大袈裟かもしれないけど、それくらいに思った。

全体を通して全然見足りないし長期の団体旅行で苦労もあったけれど、とても良い経験になりました。また個人的に行きたいと思います。

引率の先生、添乗員さん、旅行でお世話になった人達、行くことを許可してくれた家族に感謝。



『ヨーロッパ海外英語研修に参加して』

佐藤 みなみ

私は海外に行くことに関しては、不安などまったくなくただ楽しみなだけでした。でも自分たちだけで電車に乗ったり、ごはんを食べたりすることに対しては、ちょっと不安でした。なので、イギリスで夜ごはんを食べに行くときは、ちょっと怖かったです。電車はどの国も行きたい方向のホームがどっちなの

かがすごくわかりやすく書いてあったので、全然平氣でした。でもバスは、どうやって乗って、どうやって降りれば良いのかわからなかったので諦めました。

イギリスは、ビッグベンなどを観るのも良かったけど、街を散策しているときに入ったおもちゃ屋さんがおもしろかった。イタリアは、ドゥオモも観れたし、ゴンドラに乗り、ヴェネツィアングラスも買えたし、ジェラードも食べて満足でした。でもヴェネツィアに着いた日の雪は辛かった…。スイスは、ユングフラウヨッホまでの電車が楽しかったし、一面の銀世界でとてもきれいだった。ドイツは、ビアホールで飲んで食べて楽しかったけど、次の日の朝が早すぎて、その日は乗り物に乗っている間はいつも寝ていた。どの国でもバスに乗っているときは爆睡だったけど、あの日は本当に落ちていた。フランスは、エッフェル塔や凱旋門を観れてうれしかったけど、『オペラ座の怪人』を見たばかりだったから、『オペラ座』を観れたのが一番うれしかった。また買い物が一番できたのもフランスでとても楽しかった。ディナークルーズでは、夜のキラキラ光るエッフェル塔がすごくキレイだった。でもお酒があまり強くない私にシャンパンとワインはきつかった。

日本に帰って来てから、エッフェル塔に昇っていないことに気がついた。観るだけで満足していたからだと思う。なので、もう一回絶対に行きます。

ヨーロッパでいろいろな体験ができる良かったです。二日に一回くらいホテルが変わるのでパッキングが大変だったけど…。

「ヨーロッパと音楽と私」

松本 蓉子

旅に出る前から私には、決断すべきことがあった。でも、今ひとつ納得しきれなくて踏み出せずにいた。そんな優柔な思いに、この旅がプラスになってくれたらいいと、そう思いながら出発した。

21日間、とても楽しかった。たくさん美味しい物を食べ、たくさん綺麗な物を見て、たくさん笑った。その土地ならではの音楽も、度々聴く機会があった。幸せな一時だった。最後のフランスでは、過去に自分の住んでいた所や、通っていた学校、毎朝犬の散歩をしていた公園などを目の当たりにして、懐かしさで涙が出た。

旅をして多くの物事を見たり、色々な人と関わっていく中で、自分の中には既に、譲れない大切なものが存在していることに気付いた。決断するまでもなく、答えは出ていた。もし、この旅に出ていなかったら、その事を見過ごしてしまっていたかもしれない。本当にやって良かったと思う。有意義な旅だった。何気ない人の優しさが嬉しかった。ホテルが熱い。

楽しすぎな毎日

河村 知佳

「えっもう帰るの?! 帰りたくないなあ…」と思ってしまうぐらい楽しい旅行。まずはイギリス。ビッグベン・ロンドン塔などを見て、やっと「本当にイギリスにいるんだ!!」って思った。ホテルのエレベーターが激しくてびっくりしたのも良い思い出。あとは…美味しいヨーグルトも発見したなあ。次はイタリア9日間のこと。トレビの泉で願い事をしたり、真実の口に手を入れたり…。しっかりNAKATAジェラートも体験。本物のカサ

売り、ミサンガ売りがいて衝撃を受けた。ピサの斜塔は迫力満点☆そこで偶然、友達に会えて懐かしかったな。最後の晚餐は「すごい!!」の一言。それとミラノといえばすっごい良いホテル。日本のテレビも観れて、あまり日本は恋しくならなかったけど…さすがにテレビと持っていました日本食で「日本…。」って思った。イタリアは治安が悪くて、地下鉄は恐かったし、日本の倍以上キヨロキヨロしたし、1つのバッグをみんなで守ったり…すっごく必死だったけど、今考えると面白いなあって思う。そして、ついついジイプシーカウントが癖に。イスラエルは治安が良くて、ほっとした。ユングフラウヨッホははしゃいじやダメなのに、すっごいはしゃいだ!!ホットチョコはココアかもだけどすっごい美味!!ドイツといえばビアホールだねえ。楽しかった♪確かにジョッキは大きかったけど…。フランスはパリ。ディズニーランドに行った♪♪パーさん・ミッキーに会えたしうれしかったし楽しかった。ディナークルーズは最高だった。帰るのが寂しくて、ずっとこの時間が続いて欲しいなあって思った。旅をして、みんなと仲良しになれた。すごいうれしい。21日間いっぱいしゃべった。いっぱいいっぱい笑った☺本当にありがとう!!チョコ、ウェハース、食事…しっかり食べたなあ…。成田に着いてほとしたけど、とっても寂しくなった。でもみんな文理にいるんだと思ったら不思議な感じがしたけどとても安心した。また行きたいなあ……。



ヨーロッパ研修

沓掛 由花

今回この研修に参加して、普段絶対にすることの出来ない経験をたくさんすることができました。ロンドンでケンブリッジ大学生と交流したり、ローマでポンペイ遺跡、フィレンツェでピサの斜塔、ヴェネツィアでゴンドラ、ミラノでドゥオモ、ルツェルンでユングフラウヨッホの登山電車、東京ディズニーランドのシンデレラ城のモデルになったノイシュバンシュタイン城、ミュンヘンで有名なビアホール、パリでシャンゼリゼ大通りやヴェルサイユ宮殿、そしてディナークルーズ。どれも話を聞いたり、写真で見るだけで終わってしまって、普段ではとうてい体験のできないことばかりでした。長いようで短かった3週間。あっという間に過ぎた時間の中で本当にたくさんの思い出を作ることができました。この3週間は、毎日が新しい発見の連続で、その小さなことから大きなことまで発見をするたびに驚いたり感動したり、いろいろな気持ちになったことを今でも覚えています。

ヨーロッパに行って改めて感じたのは、歴史の長さと建築物や遺跡のスケールの壮大さ。日本のそれと比べても違いは一目瞭然でした。街のいたるところで文化遺産に目を懸かれたのも驚きました。それは、普段話で聞いたり、写真で見たりしていたものとは違うものでした。(ヨーロッパから持ち帰ったものは、思い出だけではありませんでした。)異国之地で、いつもと違った生活や経験をしたことは、やはりいろいろな面で大きくプラスになったと思います。

この研修の中で仲良くなれた友達と、今でもよく顔を合わせたり、遊んだりしています。この研修で得られたものはとても多くあり、この経験を普段の生活で活かせたらいい

なと思います。また是非参加したいです。
またみんなと行きたいなあ…。

「変 身」

傳田 直子

ヨーロッパから帰ってきて、私の体に変化が起こった。昼間、眠くならないのだ。それが当たり前だと思うでしょ。以前私は「常に疲れている人」だった。自他共に認めるほど。授業で寝る、図書館で寝る、電車で寝る、風呂で寝る。人生を無駄にしていたと思う。まー実際何故か疲れていたし、それをネタにしていたから何とも思わなかった。友達は、私に「おはよう」という言葉と一緒に「疲れてるね~」と言っていた。私へのあいさつは「おはようつかれてるね」が1フレーズだった。しかし、今はどうだろう。新宿へ行くのに、駅2つ歩いてしまうかという勢いなのだ。毎朝8時に起きて、朝から味噌汁作って、昼はサークルに行って、夜はバイトして。2時頃就寝。なんて無駄がない。旅行前より明らかに健康的で意欲的で充実した日々を過ごしている。始めのうちは、あの殺人的な過密スケジュールに体が慣れてしまっただけと思っていたが、どうやらそうではないらしい。3



週間の旅で何かが目を覚ましたのだ。
今は毎日が楽しくてしょうがない。

「地球の広さについて」

橋本 浩一

地球は広いということはわかりきったことですが実際体感したことが今までなかったので今回初めての海外旅行、初めてのヨーロッパということで様々な今までにない経験ができたと思います。行く前にそれぞれの国についてある程度の知識は入れていきました。それぞれの国の歴史やイギリスは食事が不味いとか、パリには凱旋門やエッフェル塔がある、各国にジプシーがいるなど大体みんなが知っているようなことです。こういうことは歴史の本や旅行ガイドを読めばだいたいわかります。「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが確かにそう感じました。例えばいくつか食事に関して感じたことを個人的に上げると、イギリスの料理は確かに不味い、スイスも不味い、イタリアは料理が出てくる間隔が長い、ピザの生地が日本の物と違い薄いが美味しい、特に南部が美味しい、パスタはどの町でも美味しい、パンをパークネと言う、イタリアで食べた肉料理がいつもチャーシュみたい、マクドナルドのメニューと量が日本と違う、どの国も水がただではないし高い、ドイツのソーセージは本当に美味しい、ケバブも美味しい、1リットルビールは意外と飲みやすい、白ワインはドイツ産が美味しい、パリのタバックでは水よりワインの方が安い、タバックみたいな商店をイタリアではタバッキという。パリには美味しいラーメン屋がある、など上げたら限がないのだけれど今回のヨーロッパ研修で僕が掴んだものは、このような人間的接触の確実な経験です。世界には200を超える国と地域があります。今回訪れた国は5カ国だが今まで体験し

たことのない多くの経験ができました。5カ国に数日間ずつ行っただけでこれだけ経験できるのだからそれぞれの国にもっと滞在すればもっと多くの経験ができるはず。さらにまだ踏み入れたこともない国や地域が200近くあることを考えたり、いったい世界にはいくつの生活スタイルがあるのかと思うと途方にくれてしまいます。そして結局のところ「世界は広いなー」と感じてしまいます。きっとこの広い世界で僕が経験できることはわずかなことなのでしょう。だから少しでも多くの経験をしたい。そうすることで少し人生が豊になるように思います。そして「世界の広さについて」とは直接関係ないのだけど旅行であったすべての人々について少し…この旅で多くの人たちに出会うことができました。いっしょに旅した文理学部のみんなはもちろんだし、お世話になった添乗員さんや先生方やガイドさん達、はたまたタバッキの店員やベニスで写真を撮ってくれた赤ちゃんとお母さん、パリの絵描き職人やビアホールと一緒に電車ごっこした国籍不明の人々、ついでにジプシーも出会った人々です。「袖すり合うも他生の縁」ということわざがありますがこれらすべての出会いに感謝し、それが自分の血肉となっていることを今実感しています。みなに感謝、旅に感謝、そして地球に大きな感謝を…な感じのこの旅についてのちょっとした文を閉めたいと思います。

「夢のヨーロッパ旅行」

平本 祥啓

2月23日、自分にとって一生忘れないであろう最高の旅は一日が32時間あったこの長い一日から始まりました。大学に入学したころから「ヨーロッパに行ってみたいな」という気持ちを強く持つようになりましたが、いざ行けるということになるとヨーロッパのパ

ンフレット等を見ても漠然としていて一週間前になつてもあまり実感が湧かない状態でした。しかしそれも一変、この日を境に夢の旅は始まりました。イギリスは日本のように街がごちゃごちゃしておらず赤レンガで統一され、赤い二階建てバスと黒い独特の形をしたタクシーが走り、英語を話す金髪の人たちが歩き、まさにそこはおとぎの国でヨーロッパに来たことを認識するには十分でとてもインパクトの強い一日でした。しかしそんな一日も夢の幕開けの序章に過ぎませんでした。何よりも強烈な衝撃を与えたのはイタリアのローマでの3日間でした。まず初日ロンドンの朝が早くまだ少し眠かった自分を覚醒させたのはカトリックの聖地であるサンピエトロ寺院の壮大さに他ありませんでした。そこでは説明を聞くこと以上にそのスケールの大きさを肌で感じ、ただただ感動するだけで言葉で表すとすれば「すげーな」の一言でした。その他コロッセオやトレビの泉等を周り、夢の中にいることを実感しました。その一日でローマを満喫したかのように思っていましたが、次の日にシスティーナ礼拝堂を訪れサンピエトロ寺院に登った後にはまた「すげーな」を味わうことが。システィーナ礼拝堂での最後の審判やアテネの学堂は有名なだけあり、絵画を全くわからない自分にもほかの絵とは違う何かを与えてくれました。サンピエトロ寺院の頂上から見た絶景は人生の中でこれは見なきゃいけないと思わせました。『ローマの休日』でオードリー・ヘップバーンが「ローマが一番でした」と言った言葉がその時の自分にはぴったりでした。しかしその後も澄んだ景色が印象的なアッシジ、ドーモから見る夕日と赤レンガがとてもマッチしていて美しかったフィレンツェ、ゴンドラに乗り水の都を体験したベネチア、イスではユングフラウヨッホの自然の壮大さ、ドイツのビアホールで騒いだこと、フランスで見た

エッフェル塔からの夜景、そして夢の最後を飾るにふさわしいセーヌ川でのディナークルーズと本当にこれまで一番興奮して感動した旅となりました。これもひとえに最高の添乗員さん、友達に出会えたおかげと思います。またここで得た価値観や改善点すべてを生かして今後の生活につなげていきたいと思います。



アグレッシブって素敵

益戸 綾美

ちょい危険なにおいのする街を歩いたこと
あらゆる国のシャンプーを購入したこと
スーパーに行ってはチョコばかり買ってたこと
お腹いっぱいと言いながら結局いつも完食だったこと
バスに乗るとすぐに気を失ってたこと
激しくパンを好きになったこと
幾度となくチャイニーズに間違えられたこと
おかしくなった金銭感覚で必死に買い物したこと
いつのまにかデザートの甘さにも慣れちゃってたこと
励ましあってビール飲み切ったこと
異常に強気な態度でタクシーに乗ったこと
なにがあってもグラッヂだけは完璧に言えてたこと

スリらしき人を睨むのがお得意だったこと

こんなにたくさんの思い出ができたのは、きっと新しい発見や驚きが感動で毎日充実していたからだと思う。ってか、なにより彼らのアグレッシブ具合がハンパなかったからかしら。この旅行では充実感だけでなく達成感も得ることができた。特に自由行動で目的地に自力で到着したときの達成感は私の自信にもなった。この旅行は、自分自身を成長させるものだった。私の中でかなり大きな存在になった。でもこれに満足はしたくない。これからもっともっと新しい世界を知っていくたい。やっぱりアグレッシブ……だよね。

そして私はこの旅行で熱～い友達に出会った。ホントに「熱い」を極めてた方々だった。みんなごきげんなキャラで一緒にいる時間が楽しくて仕方なかった。彼らの決まりは… …いかなるときもマイケル。bagは死守する。やっぱり三越ダイスキ。地下鉄降りたら点呼。パンは気づかれぬようにおかわり。くだらないことで心の底から一緒に笑えた友達は私の一番の宝物。

いま、この旅行に参加して本当によかったって改めて思ってる。

ヨーロッパでの宝物は一生大切にしていくわ。

すべての出会いに、ありがとう。



ヨーロッパ研修旅行に参加して

松本 彩

私が今回、ヨーロッパ研修旅行に参加したのは、友達に誘われたという軽い気持ちからでした。しかし、21日間という、けして短くない時間を海外で過ごしたことはとても良い経験になりました。

印象に残ったのは文化の違いでした。特に食事。当然パン食で白いご飯が恋しくなり、日本料理店などにも足を運びました。次に言葉。今回は5ヶ国まわったということで、英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語でしたが英語はなんとかなったにせよ、他の言葉はさっぱり分かりませんでした。しかしそこは相手も人間なので、身ぶり手ぶりでなんか通じるみたいです。

意外と注意しなければいけなかつたのが、治安の悪さです。5ヶ国中最も危険だったのはイタリアで、スリや置き引きがとても多いということでした。街を歩く時は常に気を張っていなくてはならず、日本の温かさをあらためて実感させられました。

そして3週間を共に過ごした仲間で、友達も増えました。今まで、日本からでたことがなかった私は、外国をとらえることができ



ず、どこか縁のない世界に思っていたけど、自分でその土地に立ち、空気を吸い、感じることでこんなにも自分の中での意識に変化があったことに気がつきました。ニュースで外国の話題をみても今までとは違った感覚があります。

なかなかできない貴重な体験をさせてもらい、とても良かったです。

ヨーロッパ研修旅行感想文

守谷 由佳理

今回の研修旅行は3週間ととても長いようであっという間の旅行だった。この3週間の旅行で私自身が手に入れることができたものはとても多かったと思う。わからなくともいいから自分で挑戦することの大切さを学んだ。今まで日本という小さな世界しか見たことの無い私にとって、世界の様々な文化に触れるということはとても貴重な体験だった。治安が悪い国なども多々あって、小さいころからの家庭環境でスリを働く子どもたちもたくさんいる。私はそのような光景を今回の研修旅行でまのあたりにし、とてもおどろいた。まず日本ではそのような光景を目にする機会がほとんど無いからだ。外国の光景を見て、改めて日本という国は平和で恵まれた国なのだと実感した。この気持ちはたぶんずっと日本にいたら感じることが出来ないものだろうと思った。

今回の旅行は80名の参加者がいた。学年も性別も学科も違う80人がそろった。3週間という旅行の中で、日本においては絶対知り合うことの無い人と出会うことが出来た。旅行に行く前、私は友達は増えないのだろうなと考えていた。しかし実際は旅行をしていく中で、本当にたくさんの人と友達になれた。大学の中にいると、同学年・同学科の人と友達になるが、ここではそんなもの関係なかっ

た。学年を超えて友達が出来た。そして、さまざまな人たちからいろいろな体験談（就職の話など）を聞かせてもらうことができて、私自身とてもよい刺激になり、勉強になった。私がこの旅行を無事に楽しく過ごせたのは周りの人たちのおかげだと考えている。3週間という長旅の中で、疲れが出たときもあった。そんな時みんなと話したり、様々なものを見学していると疲れを忘れてしまうほど楽しい気持ちになれた。本当にみんなのおかげだと思う。

わたしはこの研修旅行に参加して本当に良かったと思う。いろいろな経験が出来たし、大切な友達、頼りになる先輩と会えたからである。この研修旅行で学んだことを生かして、これから大学生活を実のあるものへとしていきたいと思う。



ヨーロッパ研修旅行の感想

大林 由佳

今回のヨーロッパ研修はとても楽しい旅行で、思い出は一生の宝物になると思います。ただ、ひとつだけ忘れられない大事件が起きました。水の都ヴェネチアに到着した夜、そこは一面の雪景色でした。吹雪のために視界が悪く、雪に足を取られながら必死でホテルまで歩いていきました。そんな中で、私はイタリアのジプシーたちに財布をすられてしまいました。気づいたのはホテルに着いてから

でした。どうしていいのか分からなかった私は相方寺村に打ち明け、羽室添乗員さんに相談しました。カードなどは添乗員さんにすぐに対応して頂いたのでなんとか無事にすみました。私はショックで落ち込みきっていましたが、寺村の懸命な励ましと4万円の同情金により、なんとか残りの旅行を乗り切ることができました。本当に寺村には感謝しています。あと2万5千円、頑張って返すからね……。

ヴェネチアでは結局盗難届けを出しに交番に行くことになってしましましたが、そんなに悪い思い出ばかりではありませんでした。そこでは旅行中に知り合った先輩たちと一緒に市内を散歩したりして、それからも一緒に行動するようになりました。先輩たちと仲良くなれた事は、今回の旅行で一番の収穫のように思います。寺村と先輩たちと一緒に旅行できた事で、楽しい事が2倍3倍になり、一人では味わえなかった感動をたくさん感じることができました。

ヨーロッパはすべてが壮大で、見るもの全てが新鮮でした。古い町並みの中に堂々とそびえ立つ遺跡を見ていると、昔の人々の息遣いが聞こえてくるようで、歴史は確かにあったのだという強い主張が込められているように感じました。

帰国して何日間かは、旅行に行ったことが嘘のようで、時が止まっていたような不思議な感覚になりました。その感覚がなくなってきたある日、ヨーロッパから手紙が届きました。それは寺村が高熱を出したローマで書いたもので、看病してくれてありがとうという内容でした。私に気づかれないように内緒で出していたようです。私はただ心配で一日そばにいただけなのに、と思って胸が熱くなりました。ヨーロッパはとにかく偉大なところでしたが、そんな凄い所に寺村と一緒にHttpExceptionで本当に良かったと思います。

見るもの、聞くもの、感じること、全てが感動的だったヨーロッパに、絶対また行きたいと思います。



欧州研修旅行で学んだこと

岡庭 藍子

研修旅行に参加して、楽しかったというよりも勉強になったという思いのほうが強い。

海外に出ると日本を様々な角度から見直すことができるが、今回は特に日本の素晴らしいを再確認することができた。治安が悪くなっているといわれているが、それでも日本は安全な国だと思う。鞄を後ろにして歩くことや、電車の中で寝ることが当たり前である私にとって、身をもって治安の悪さを体験することができた。恐い思いをすることもあったし、ジプシーに対する知識がない日本人であったらすぐに狙われてしまうだろう。特にローマでは、このまま無事帰れるのか心配になるほどだった。

それから、欧州にいる間、人々の生活の中に深く宗教が結びついていることを実感した。日曜日には多くの店が営業せず、とても不便だった。日常生活だけではなく、滞在中に訪れた美術館の中で、そのほとんどの作品が宗教をモチーフにしたものだった。数多くのイエスとマリアを見た。ただ作品を見るうえで、もっと勉強してくれればよかったというのが本音である。見覚えはあるが、誰の、ど

ういう名の作品で、何を描きたかったのかということがわかつていれば、より深く作品を知ることができたのではないかと反省している。とはいっても、今TVなどでさかんにルーブルやダヴィンチの特集が組まれているのを見ると、名画を実際に見ることができたことは貴重な経験だったのだろう。パリやフィレンツエなどにも見切れなかつた美術館がたくさんあるので、ぜひまた見に来たいと思う。

そして、この旅で訪れた中で一番印象深いのは、ユングフラウヨッホから見た絶景である。幸い天候にも恵まれ、素晴らしいものを見ることができた。もう二度とあの景色を見ることはできないと思うと、スイスは物価が高いことに驚いたが、2日間の滞在では物足りなかつた気もする。今度は夏のスイスに来て、他の都市も訪れてみたい。

21日間の研修旅行は、正直ハードスケジュールだった。朝の出発時刻が早いことが多かったので、早く寝るようにして体調管理にも気を配るようにしたが、もっと添乗員さんの話を聞きたい、景色を見てみたいという気持ちとは裏腹に、バスの移動では結構寝ていた気がする。しかし、21日間も欧洲旅行に行けるということは、社会に出てからでは非常に難しいことであろうし、数多くの貴重な体験をすることができた。研修旅行を計画していただいたJTBのみなさん、一緒に旅をした仲間、何より旅行に行かせてくれた家族をはじめとした多くの方々に、心から感謝したい。本当にありがとうございました。



ヨーロッパ研修で得たもの

高森 真由子

2月23日から3月15日までの21日間、私はヨーロッパ研修に参加した。研修では、イギリス・イタリア・スイス・ドイツ・フランスの計5カ国を訪れた。私がこの研修に参加しようと思った理由は二つある。一つは訪れる国の中に私の好きなスイスが入っていたからということ、そしてもう一つは一度も行ったことのない海外へ行ってみたかったからということである。この二つは研修に参加することで実現した。また、そのこと以外にもとても良い経験をした。

私は一人で研修に参加していたので楽しく過ごせるかとても不安だった。しかし、研修に参加していた人たちと話し、仲良くなるにつれて不安はいつの間にか消えていた。そして、仲良くなつたうちの一人とは帰国後も連絡を取り合い、学校で会って話したり、遊びに行ったりしている。大学に入って二年もたつと、学内で新しい出会いを見つけることはなかなか容易ではない。しかし、私はこの研修に参加したことがきっかけで、一生付き合える友人を見つけることができた。

今回のヨーロッパ研修で、私はさまざまなことを経験し、また得ることができた。その中でも特に新しい友人を得ることができたのは私の中で大きい。そして、今まで付き合ってきた友人の大切さも再認識した。研修に一人で参加することはとても不安だったが、思い切って参加して本当に良かったと思う。

飛び出せ、ジャパン

田中 鮎子

今回のヨーロッパ研修旅行は、私の19年の人生において3回目の海外旅行でした。この研修旅行を知ったとき、私は飛行機が大嫌いなくせに、海外への憧れは人一倍あるため迷わず参加しました。高校3年間世界史を学び、大学でも史学科で世界史を学んでいる私は、他の人よりはヨーロッパに対する基礎知識があるだろうと思っていたのに、添乗員さんのガイドに耳を傾けると、目からうろこ的な話ばかりでした。私の持ち合わせていた知識なんて本当に外側の薄っぺらい物だと思いました。また、ヨーロッパの歴史的なことは頭に入っていても、文化・風習・言語などはさっぱり状態のまま日本を飛び出してしまったので、現地に着くと感動とともに驚きや戸惑いがかなり生じました。

1カ国目のイギリスでは、本当に死ぬかもという予想もしなかったほどの寒さ、2カ国目のイタリアでは、初めて英語以外の言語圏でのとまどい、治安の悪さやイタリア人の陽気さ、3カ国目のスイスでは、これまた初めてふれるドイツ語へのビビリ、4カ国目のドイツでは、英語教育が凄いというわりにマックの店員さんに英語がまったく通じなかったこと、ビールジョッキがもはやピッチャーだったこと、5カ国目のフランスでは、お手上げなフランス語。もう本当に今思うと21日間もヨーロッパで暮らせたなあ、と驚きます。でも、基本的に治安の悪ささえ除けばヨーロッパの人々は友好的で陽気な人たちばかり。毎日なんだかんだで笑って過ごしていました。

旅行出発前は長いと思っていた旅行も、長く滞在していたイタリアから出るとあっという間でした。イタリアには1週間以上も滞在していた為、今回の研修旅行で1番印象に

残っている国はイタリア！さすが歴史の国だけあって見所満載、感動もしまくりで、他の国にくらべイタリア語はまだ頭に残っています。イタリアに続くスイス・ドイツ・フランスではとっさにイタリア語がでちゃうほど。機会があればイタリア語を勉強したいです。イタリアといえば、花の都フィレンツェでの自由行動の日、別のツアーで来ていた友人と待ち合わせて合流し遊ぶことに成功しました。イタリアの友人のホテルへ電話したり、見知らぬイタリアの土地で待ち合わせたり、怖くもあったけど、なんだか自分が少し成長した気がしました。いつも日本で遊んでいる友人と、フィレンツェをぶらぶら歩いて遊んでいるときは、そんな自分たちが信じられなくて興奮しまくりでした。

研修旅行では、日本にいるだけでは得られないものをたくさん得ました。大学にも友達がたくさん出来て4月からまた大学が楽しくなりそうです。また、私の将来の視野に外国が大きく映り始めました。また近いうちに外国へ行きたいので、行ったあにつきには、さらに大きく映ることになりそうです。

両親にも感謝です。

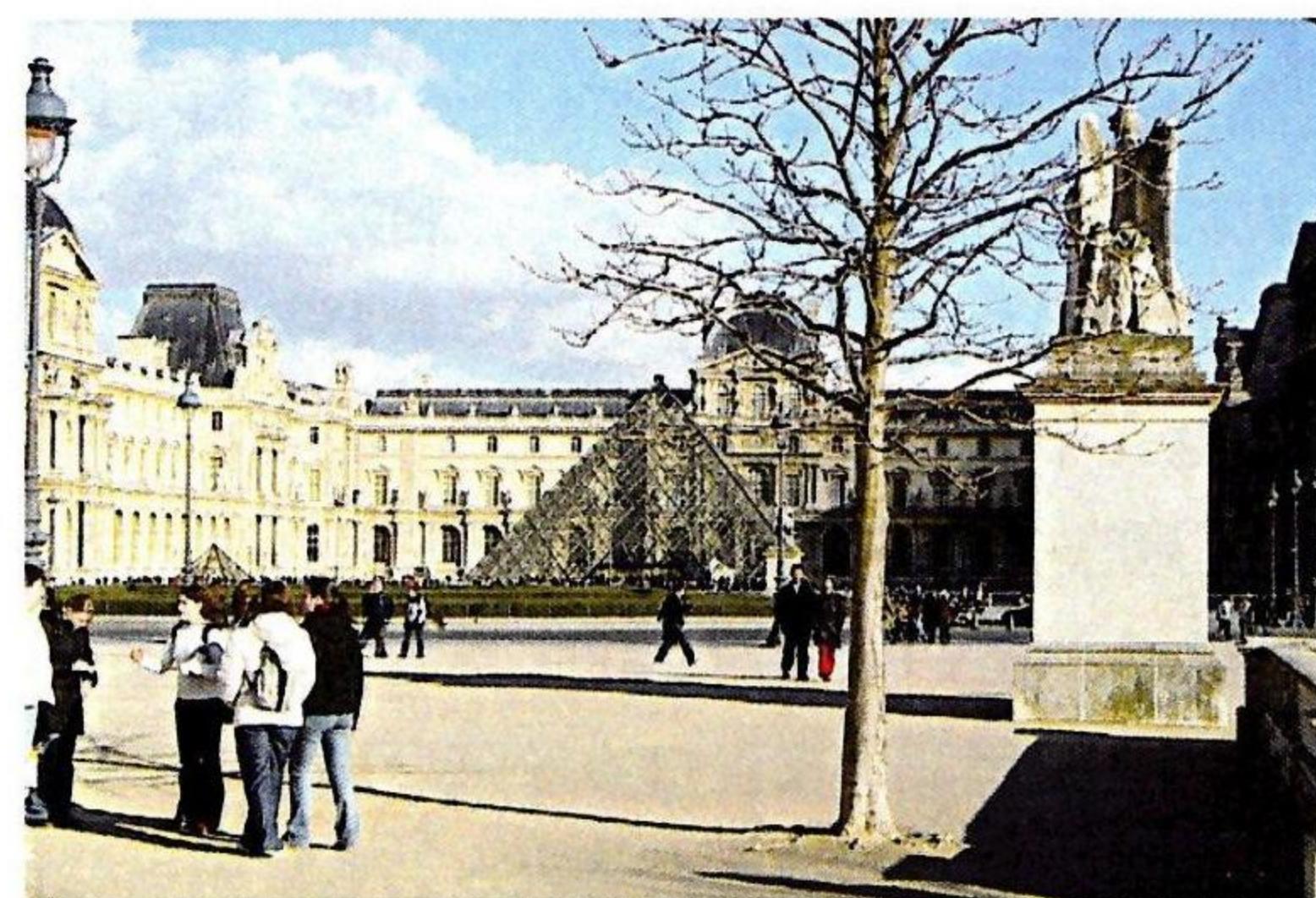


欧洲旅行

寺澤 出

5カ国、8都市の主要な観光地の他に、近隣の観光都市にも行く事が出来、初見の人にとっては非常に役に立つ旅行だと思う。観光地だけあり誰もが観光客に慣れていて、片言（ありがとう、おはよう etc）の日本語を使ってくれる人も多い。反対にスリや置き引きも多く、地下鉄では寝ている人はいなかった。大学、教会、美術館や山など色々な所に行き、毎日、日本では見慣れない、モノ、人を見る。食事も毎食のように違うものが出される。最初に訪れたロンドンでは初めての事ばかりで戸惑い、ローマ、フィレンツェと少しずつ慣れていった。どの都市でも、美術館、教会を見て廻ったが、大きさ作品の豪華さはパリの『ルーブル美術館』に勝るものはないかった。10時間程度、早足で歩いても全てを見る事は出来なかった。他の美術館とは違い完全に時代ごと、地域ごとに分かれて展示されているので時代の流れが分かりやすい。博物館で言えば、『大英博物館』が世界各地から持ち去った様々な物が飾られ、見た事の無いような形をしたアフリカの像などとても新鮮だった。そのほかにも『ヴァティカン博物館』『パラティーナ美術館』『ウフィツィ美術館』のような総合的な美術館、博物館も良かったが、『ピカソ美術館』のような個人の作品を集めた所も作家への理解を高めてくれた。世界最大の『サン・ピエトロ大聖堂』を始め、各地で豪華な教会の数々を見て、この旅行でキリスト教文化圏と日本の違いについて考えさせられた。キリスト教圏は湿気が少なく石造りで建物を建てることが出来、地震など天変地異も少ないので長持ちする。神の威信を地上に示すことを目的としてあらゆる力が結集される。それに引き換え、日本では一部の管理された建造物を除きすぐに壊れて

しまう。湿気があり石造りの建造物は不向きだった。威信を示すにしても神でも、国でもなく権力者である場合が多く数世代に及ぶ大規模な建造物は作られなかった。そもそも天変地異のため破壊されることが多く、豪華にすることに熱心ではなかった。どちらがいいかは知らないが、キリスト教、神の存在はこのほか大きく人造の美に執着しているように感じた。



ヨーロッパ研修を終えて

寺村 優貴子

ヨーロッパは私が一番行きたかった国でした。

その憧れのヨーロッパに三週間行って、目にするもの全てが壮大過ぎて毎日が感動と興奮の連続でした。何十世紀も前のものがそのまま残っていたり、まるで現代から古代へタイムスリップしたかのようでした。その所為か、ローマで38.2℃の熱が出てインフルエンザの疑いもかかり大変でしたが相方大林の甲斐甲斐しい看護により丸一日で回復することが出来ました。ローマでの自由時間を潰してしまったので今でも申し訳なく、今でも頭が上がりません……。ごめんね。

先輩方とも仲良くして頂き、毎日を無駄なく濃い時間を過ごすことが出来ました。全て、一人では作ることの出来ない思い出ばかりです。私は今、英会話に通っていますが、

日本にいたときは漠然と勉強していた英語をもっともっと勉強しなくてはいけないという焦りと必要性に気づかされました。もっと英語を話すことが出来ていたら、今以上に得るものがあったはずです。ヨーロッパという、日本とは全く違う、人々や文化や習慣に触れ、世界はこんなにも広かったことを身をもって知り、同時に自分が今まで日本で無駄な時間が多かったかを思い知らされました。また、自分が一年間以上悩んでいた事が小さく感じ、新境地が開けました。この旅行を通して自分が大きく成長できたと思います。

3年で、就職活動というリスクを背負い込みましたが、かなりのハイリターンでした。私が今こうして日本で過ごしている間、ヨーロッパでも時間が進んでいることは当たり前のことですが、夢のような世界でした。三週間、まるで時間が止まっていたかのようでした。また絶対、旅立ちます。



ヨーロッパ研修レポート

三上 恵理菜

2月23日 10:10発のJAL便でロンドンへ向かった。3週間はとても長く充実した生活を送った。書くことはたくさんあるし、書ききれないでの、町の様子と人々の気性を中心に書こうと思う。

まずロンドンの町は、きれいな家が多く、レンガに茶と白を基調にしたデザインが目立

つ。道路は広く、日本のように横断斜線は存在しなかった。なので、町の中を歩くだけでおもしろかった。道路の横断は命がけである。目線の高さにみえる風景はモダンできれいな町並だが、いったん目をおとすとガムが多く捨てられ、コンクリートにへばりついている。片づけるものもいなそうだ。私は日本の路上ガムを捨てる人を思いだし感謝した。

英國に住む人（おもにヨーロッパ全土？）が、カサをさすところはあまり見られない。天気の変わりやすいヨーロッパでは雨→晴→雪→くもりなどすべての天候を体験できる。英国人の気性は、のんびり。日本人がテキパキであったら、英国人はテキ、伊国人はテである。そのためか、英国人（これもヨーロッパ全土か？）は、一週間で38時間働けば良い。それ以上働かせると会社は罰金を払わなくてはならない。また、昔から貴族社会を基盤としていたので町の中でも、その名残がみられる。職種によって住む場所、行けるお店がちがう。ウエストミンスター寺院の中の礼拝堂でも、騎士の位によって座る場所はちがった。

次にイタリアであるが、街の様子は一言で言うと「汚い」。治安も悪く、バッグは前に置いておかないと安心できない町である。習慣としてお風呂には入らないので、トイレの横にビデが置いてあるのだ。英語が通じると思ったが通じない。とてものんびりしているので頼みごとは早めにした方がよい。前に書いたが、町は「汚い」のではなく、それ自身が遺跡のような街であると2日目に気付く。昔の建物をつかっていることが多く築100年はざらにあるらしい。また、戦争中の銃弾のあとをそのまま残しており、そのことを、歴史としているのである。新しい物が良いものではないと思わせてくれる。

イタリアには、ジプシーという、スリ・置き引きを職業（？）としている人々がいる。

物乞いをしているが、日本人男性の3倍は稼いでいるという。

スイスは山に囲まれた町。スイスは、ヨーロッパの中心にあるため、たびたび侵略されて、そのため国防に力を入れている国である。スイスは土地に恵まれていなく、各国に傭兵を送ることで、国を経営していた。スイスの傭兵は強く、フランス革命のときジョージ18世を最後まで守り、全滅したことで有名だ。72hで90万人の兵を現在でも集められるとする軍事国家である。町の中はせまい国土なので、一軒家は少なくマンションが多い。

ドイツは行くまでは、ヒトラーのイメージしかなかったが、とてもきれいな所だった。ドイツにはプロテスタントとカトリックがいて、異宗派同士の結婚式は、牧師・神父に誓いの言葉を言う。犬の名産で犬税もある。ずっと雪が降っていたが城めぐりはとても楽しかった。

フランスは一言でいうと、“見る町”。数々のブランドショップの本店があり、道も広く歴史的建造物は大きく豪華。ルーブル美術館は世界最大といつてもいいほど壮大。協会もカトリック教会なので豪華な外観である。パリということでスリも多くここでも気が抜けない。最後の日にはもう1ユーロしかなくて、どこにもいけないのでスーパーへ向かう。途中、オレンジがおいしそうだったので、買うと2コオマケしてくれた。ヨーロッパ人は、日本人にかなり好意的である。気軽に話しかけてきて、やさしくしてくれる。

この旅で、日本においてはわからない国々の空気を吸えてよかった。今度は個人でゆっくりと美術館を1日中みたいと思った。

ヨーロッパ旅行の感想

伊藤 俊一郎

今回のヨーロッパ研修旅行では、イギリス、イタリア、スイス、ドイツ、フランスの5カ国の街や名所を見学してきた。

その中で思ったことは、どの国も歴史を大切にしているということである。例えばローマ等の中心市街地では建物の新築自体が規制されており、何世紀も前の町並みがそのまま受け継がれている。これは今回訪問したどの国、どの街にも基本的に共通することであり、しかもその建物は史跡や記念物としてではなく、住宅や商店、オフィスとして現在でも命を保って生きている。歴史的なものを大切にするヨーロッパの人々の姿勢は、言い換えれば歴史と伝統の中に自分たちを位置付けられていると言ってもよく、これは日本も学ぶべき点だと思う。

5カ国の中ではイギリスが最も印象に残った。最初の訪問国だということもあったと思う。ロンドンからケンブリッジまでの車窓の風景はほとんど森の牧草地で、それに白い霧がかかっていて、もともと自分が持っていたイギリスのイメージそのままの眺めだった。またペンブルックカレッジの建物は教会のような非常に重厚な構えで、大学というもののイメージが大きく変わった。残念ながら雨であったが、ケンブリッジの町を散策したのも楽しかった。ロンドンでは大英博物館を見学したが、とても一日ではすべて回りきれなかった。よくあれほどの大英博物館を見学できたと思う。ロンドンは今回行きたくても行けなかつた所も多いので、いつか再訪したい。

今回の旅行では自由行動や自由日が多くとられていて、自分で計画を立てて行動することが多かった。どの街でも一日、パリでは二日も自由日があったので、美術館や店などを

自由に回ることが出来た。このように自分の好きな所に行けるのはとても良かったと思う。しかし半面、すべてを自分で決定しなければならず、計画の立て方が甘かったり情報収集が不充分だったりで、必ずしも満足できた事ばかりでは無く、自己責任について痛感させられる事もあった。

このように今回の旅行では、自分の未熟さや問題点をいくつも発見することになった。普段とは異なる環境で、旅行自体が自分を見直すいい機会になったとも言える。不満が残ってしまった事については今後の糧にしていきたいと思う。



ヨーロッパ研修旅行感想文

宮尾 岳宏

私にとって初めての海外旅行、この旅行はいろいろな言葉を教えてくれました。中でも「ありがとう」の言葉はとても印象的です。「Thank you」、「Grazie」、「Danke」、「Merci」、これらを初めて「ありがとう」という気持ちを心からこめて使いました。この旅行中どれだけの人にかかわって、そのうちの何人にこれらの「ありがとう」が言えたでしょうか。旅行以前は私の中でただの1フレーズでしかなかったものが旅行をして初めて、言葉、言霊となり、相手へ気持ちを「伝える」ことができました。そして相手が笑顔で返してくれたときが、ヨーロッパへ行って一番よかったです。

と思えた瞬間、うれしかった瞬間だと思っていました。改めて言葉の意味や使い方を実感させられ、旅行中は何度も何度も自分の今までの日本語の使い方を振り返りました。外国語で伝えたときの気持ちを忘れずに、これから私の日本語は気持ちのこもった言葉でありたいと思っています。最後の日、成田空港であっという間に解散してしまいましたので、一番お世話になった旅の仲間たちに心からの「ありがとう」を言えずに終わってしまったことがとても心残りです。いつかまたどこかでみんなに会えることをすごく期待しているので、そのときは気持ちのこもった言葉を使ってお話をできたら幸いだと思っております。

ヨーロッパ研修旅行レポート

岩瀬 美香

私にとってこの研修旅行は、人と人のつながり、伝統を残し文化を守り続ける力、各々の人々の誇り、普段生活していると見過ごしてしまう様々な感動を全身で感じた時間だった。

振り返れば緊張の連続だった。緊張の解ける時間はホテルや移動中のバスの中くらいで、外に一歩出ればそこは言葉も文化も何もかも違う土地。当たり前だが、その事実が私たちを臆病にさせた。けれどそれでは旅を楽しめない！もちろん、日本人というだけで注目されていたのはわかつたし、狙われていると感じた瞬間もあった。しかしそれ以上に素敵な出会いもたくさんあった。

フィレンツェでのこと。その日は一日フリー研修で、夕食までにホテルに戻れば良いという日だった。私と友人は休憩することも忘れて、ドウオモに登り、パニーニやジェラートを片手に町中を走り回った。時間いっぱいまで観光を楽しみ、バスに走り乗った。

その時はっとした。私たちはバス停を確認したもの、行き先がいるか確認し忘れてしまったのだ。もしこのバスの行き先が違えば、確実に集合時間に遅れ、全員の予定を遅らしてしまうことになる。全身が緊張し、表情いっぱいに不安が広がった。

その時だ。一人の老父が私たちに何か話している。もちろんイタリア語。大きな声だったので困惑し「わからない」というジェスチャーを見せた。それでもより強い口調で話しかけてくる。どうしていいかわからず、思わずホテルの名前を口にした。するとその老父は「ここでおりろ！」というジェスチャーをしたのだ。周りにいた人も皆、私たちに「降りろ！」と言ってきた。私たちが不安そうな顔をしていたからだろう。その老父はホテルのあるバス停を教えてくれたのだ。これには私も友人も感無量であった。言葉も話せない、見ず知らずの日本人に親切にバス停を教えてくれた。治安が悪く、バスや地下鉄はスリに遭いやすいと聞いていたのに、このバスに乗っていた人々は何て優しい人なんだろうと感激してしまった。

バスを降りる際に私たちは最高の笑顔を彼らに見せた。感謝の意を見せるにはそれしかなかった。しかめっ面で「おりろ！」といつてくれた老父もまた、最高の笑顔を見せてくれた。おそらく、老父は意思を伝えることに精一杯で、固い表情になってしまっていたのだろう。

この旅で、多くの歴史に触れた。絵画一つ、彫刻一つに様々な歴史の背景が存在した。頭がいくつあっても足りないと何度も思った。今思い出しただけでも数え切れない。それと同時に、多くの人々と出会った。フィレンツェのバスの中で出会った老父を始め、ローマの地下鉄ホームで行き先を教えてくれた笑顔のおばさん、パリのレストランのメニューを片言の英語で説明してくれたジョ

ニー、多くの人に会えたことを決して忘れないと思う。私たちが彼らに返せた事は、一言「ありがとう」という言葉と、喜びを表現する笑顔であった。私たちが笑うと彼らもまた笑顔で返してくれた。たった一瞬だけれど、お互いの笑顔が通い合った時、大きな喜びを感じた。その時のことをずっと大切にしておきたい。

最後になってしまったけれど、21日間24時間、ずっと一緒に旅をしたはるかの笑顔は、どの国の人にも伝わる素晴らしいものだと感じたよ！共に旅出来たこと、本当に感謝しています。ありがとう！これからも仲良くやってこうね(^ー^)



ヨーロッパ研修旅行感想文

梶原 亜希子

出発する前は21日間は長いなと思っていましたが、いざ出発してみると、あっという間の21日間でした。イギリス・イタリア・スイス・ドイツ・フランスなどの国もとても印象深く、とても良い研修でした。そのなかでも一番印象に残ったのは、やはり長く滞在していたイタリアです。治安があまり良くないので市内研修の時は特に日本ではない緊張感を感じましたが、とても良い思い出ができました。

フィレンツェでドゥオモに登りました。階段を登るのは結構大変でしたが、素晴らしい

景色を眺めることができました。

ゴンドラに乗ったことも、とても良い経験でした。前日の大雪がうそのように、とても良い天気でゆったりとした時間を過ごしました。他の国やイタリアでも教会を見学しましたが、どれもすごい絵画やとてもきれいなステンドグラスがあり、また大きさもとても大きく外見も色々な様式で建てられていて、素晴らしい建築物でした。

フィレンツェでは、新しいものを建てるのではなく古いものを修復していくので、古い建物などを普通に道を歩いていると見ることができます。古くからの文化や歴史を大切にしていることがよくわかりました。

21日間、毎日が初めて見るもの、初めて体験することだったので、とても楽しかったです。また今年は珍しく雪がいつもより多かったり寒かったので、それも良い経験でした。

日本と外国を比較すると、それぞれ良い点、見習うべき点などが色々ありました。例えば、労働のことに関して日本は外国を見習うべきだと思いました。日本人は働きすぎです。そして日本の良い点は治安が良いことだと思います。

そして言葉はとても大切だと思いました。英語が世界共通語だということを実感しました。しかし、その国々の独自の言葉を少しでも学び、コミュニケーションをすることはとても大切だと改めて思いました。

今回この研修に参加して本当に良かったと思っています。

ヨーロッパ研修旅行

黒澤 富裕貴

テレビの泉に、5年ほど前に訪れたことがあった。テレビの泉といえば、泉を背にしてコインを投げると、もう一度その地を訪れる事ができるという言い伝えが有名だ。そして今回、再びイタリアを訪れることができた。

今回は、イタリアだけでなく、イギリス、フランス、ドイツ、スイスまで行くことができて、行ったことのある国が、一気に5倍。イギリスはバッキンガム宮殿で、軍の楽団の行進をみることができた。年中やっていることではないと思うから、とても運が良かったと思う。スイスのキオスクで日本への葉書の切手を買ったら、お店の人が間違えて、国内便用の切手を渡され、後で気合いで換えてもらった。何事もチャレンジが大切だと学習。ドイツビールを飲んだホフブロイハウスでは、学生さんらしき格好いいイタリア人と、ちょっと交流した。フランスでは憧れのオペラ座へ。ベルサイユ宮殿は、“ベルバラ”を思い出しながら歩いた。

他の国でも思い出は沢山できたけど、やっぱり一番はイタリアだと思う。一番長く滞在したから、というのもあるが、私はイタリアの街が持つ、温かい雰囲気が好きなのだと思う。そしてローマ帝国など、古い歴史にはわくわくさせられる。

ローマは、再び訪れることができた喜びがあった。フィレンツェはドーモ上まで登り市内を一望し、ヴェネチアでは、ゴンドラに乗り大合唱した。ミラノは、あの有名な『最後の晚餐』を鑑賞。壁一面の絵の大きさに圧倒され、ダ・ヴィンチの凄さを、エネルギーを感じた。さらに、行ってみたかった南イタリア、ボローニャ、『ロミオとジュリエット』の舞台であるヴェローナもすばらしかった。アッソジは、私が前行った、オリビエートと

いう街に雰囲気がよく似ていて、懐かしさを感じた。またアッシジからの景色は美しかった。

今回の旅行に、友達5人で申し込んだ。最後まで5人で回りきれて本当に良かったと思う。また、途中で仲良くなれた人もいて、色々な人とも話せて良い勉強になった。そして、添乗員の4名には、色々な場面で本当にお世話になり、何事もなく無事終わったのは、添乗員さんのおかげだと思い、心から感謝したいと思う。

ヨーロッパ研修旅行

齋藤 美帆

私の研修旅行はまずその準備から始まった。今までに海外旅行なんかに行ったことのなかった私は何から準備すればいいかわからなかった。持ち物、服装、お金、周りが与えてくれる情報に翻弄されながら何とか準備し終えた時、私の中にあったのは未知なる旅への期待ではなく何をしにいくのだろうという自分に対する疑問だった。

出発前に体調を崩していたこともあり、その状態はイギリスに着いた後も続いた。もちろんイギリスの建物はとても好きだったのでそれらを見ているときは何を考えるでもなく楽しむことができた。特にウェストミンスター寺院の教会部分は荘厳な空気が漂っていてすばらしかった。ただ、寒さと英語しかないうことと不安で元気が足りなかった。

元気を取り戻したのはイタリアに入ってきたからだった。実はイタリアは一番気がかりな国だった。その理由はトマトが嫌いと言うところにあるのだが、帰ってきた今となっては一番楽しかった国である。

イタリアは食事がおいしかったというところも気に入った理由のひとつだ。しかしそれよりも、何よりも教会などの彫刻、絵画が凄

かった。一つ一つの作品に物語があって、それはすべて聖書に基づかれていて、宗教をとても大事にしていることが見て取れた。町の中に歴史が感じられ、新しい時代へと咲き急いでいる日本（特に東京）とは大違いであった。一週間近く滞在したことと添乗員さんたちがいろいろなイタリア語を教えてくれたこともあって最後の頃はイタリアという国に慣れ親しんできたなど感じた。

ローマからフィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノとイタリアをまわったのだが（他にもいろんな町に行きましたよ）その中でも特に思い出深いのはフィレンツェのドゥオーモに登ったこととミラノのサンタ・マリア・デレ・グラツィエ教会で最後の晚餐を観たことだ。

フィレンツェのドゥオーモはとにかく高くしかも頂上につくまでに嫌になるほどらせん階段が続いていた。あまりにもずっとらせん階段なので、そのあとしばらくはらせん階段がトラウマになってしまうほどだった。しかし登りきった後の上から見渡した町はとてもきれいですばらしかった。

最後の晚餐ではガイドさんをたった5人で独占できるラッキーな状況になった。このガイドさんは日本語がしゃべれないので全部英語の解説になるとのことだったので英語の不安な私としては聞き取れるか非常に心配だった。しかしそのような状況だったのでわからないことは何度も聞き返し、友達の翻訳を聞き、何とか英語を理解して最後の晚餐を観ることができた。この旅行の中で一番英語を使った瞬間だった。

このように楽しいイタリアは終わり、イス、ドイツ、フランスと旅行は進んでいった。ここには書ききれないがそれぞれの国でも楽しいことはいっぱいあった。そして最後にはもうちょっとこの旅を続けたいと思うようになっていた。

帰ってきた今思うことは、最初に持っていた疑問はあんまり解消されてはいないということだった。しかし日本以外の外の世界に一步でも踏み出せたというこの経験はきっとこれから何かの役に立つに違いないと期待している。もしかしたらすでにもう役に立っているのかもしれない。そんなふうに感じられる心の変化があったことは確かである。

ヨーロッパ研修旅行に参加して

高野 晶代

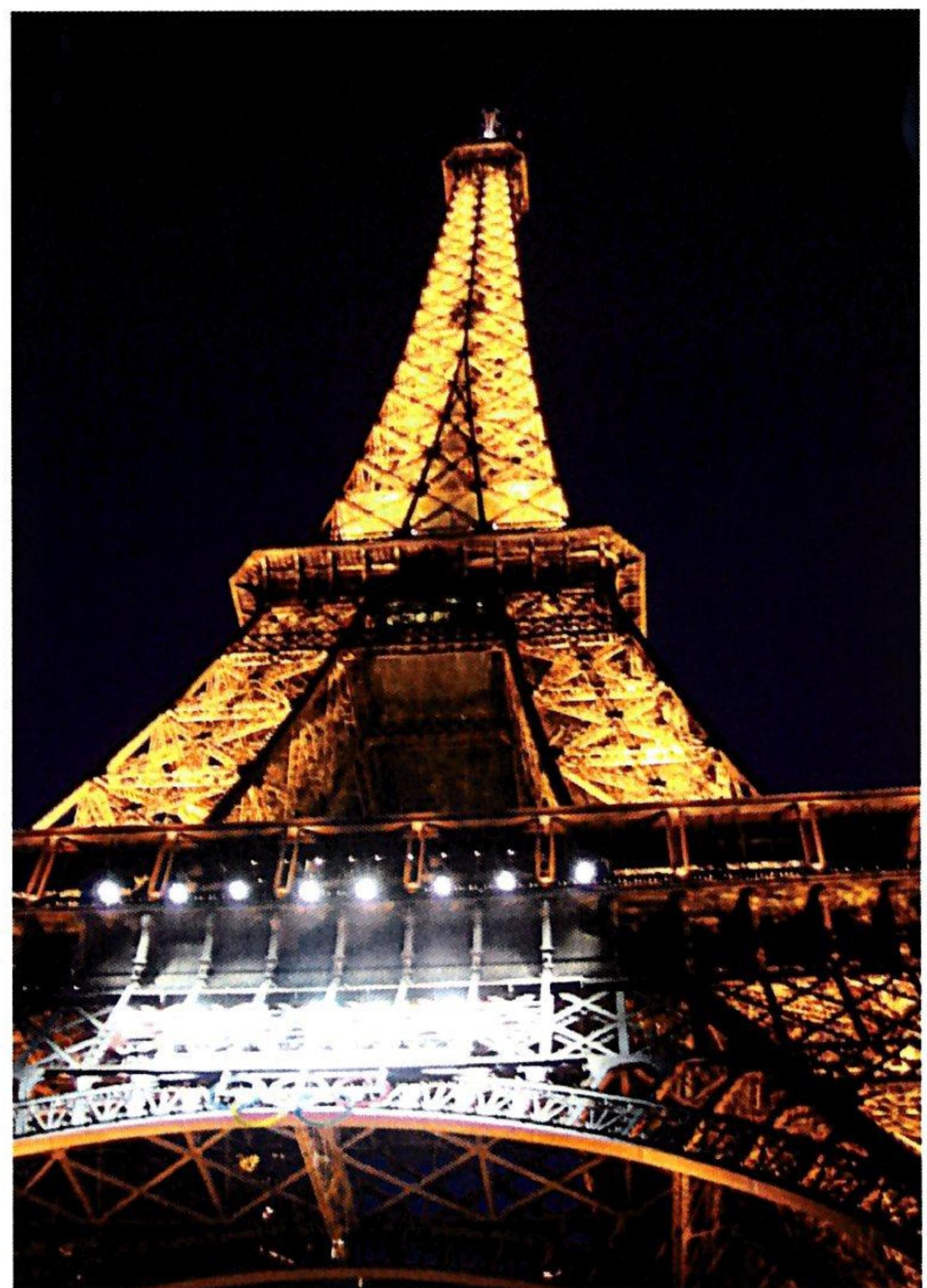
この旅で私は、さまざまな経験をし、それを通していろいろなことを学ぶことができたと思います。特に、滞在した5カ国の国の言葉などの文化をそれぞれ少しずつではあるけれど触れ、日本の文化との違いを自分で体験することができたということは、日本にいたままでは絶対にできないことなのでそれだけでも、この旅行に参加した意義があった気がします。また、この旅行のおかげで自分の視野が少し広がった様に思います。

しかしながら、この旅行では反省する点もたくさんあったと私は考えています。最も反省していることは、友達と自由研修の時にどこに行くかということをあらかじめ決めていたにもかかわらず、自分が訪れる場所の歴史などについてほとんど何も調べずに旅行に行ってしまったことです。もちろん添乗員の方や現地のガイドさんによる説明はありましたが、自分なりに調べて旅行を行っていたら、もう少し内容の濃い研修ができたように感じています。また、何度か自分の行動が友達に迷惑をかけてしまったことがあったので、それもとても反省しています。

また、旅行を通して私は自分の英会話能力のなさをあらためて実感しました。なぜならせっかくある程度相手の話していることがわかつても、自分の考えていることを英語で話

すことがなかなかできなかったからです。だから私は、今後もっと英会話能力をつけてていきたいと思います。

今回の旅行は、私にとって初めての海外旅行だったこともあって、21日という期間の中で時にはいろいろ悩んだり、つらいこともあったけれど、そういうことも含めてとてもいい思い出になったと思います。だから、この旅行での経験を今後の私の生活に十分いかせるように頑張りたいと思います。そして、今回の旅行でできた友達や人間関係を大切にしていきたいです。



見る、聞く、触れる、そして、感じる —研修旅行を終えて—

森田 悟

80人の学生の皆さんとの旅はどのようなものになるのか。期待とともに移動の多い行程にはいくばくかの不安がありました。学生の皆さんとともに過ごす時間ができる限り楽しく、しかも意義のあるものにすること、学生の皆さんと自由に率直に会話をしながら旅の体験を共有すること、そして引率の一員として無事役割を果たすことが目標でした。

出発の前にはロンドン、イタリアの諸都市について図書館で情報を集めたり、いくつかの手持ちの本を読んだり、滞在地の地図を集めたり。しかし、どうやら私だけではなかつたようです。行きの機内で隣だったAさんは私以上にイタリアの美術に関する本を事前に読み、行きの機内でも博物館についての本を熱心に読み、情報収集に余念がありませんでした。またバスでいっしょだったBさんは訪問地の旅行ガイドブックを念入りに出発前に調べてあり、行く先々で訪れたいスポットを詳しく研究して、物見遊山でない旅をアレンジ。このように学生の皆さんがそれぞれの目標を持ちながら研修旅行に参加していることを旅のはじめから感じることができました。

研修旅行には日本大学との提携校ケンブリッジ大学ペブルックカレッジ訪問をはじめとして歴史上重要な訪問地が数多く含まれ、歴史や文化についての教養が深められたのは言うまでもありません。それぞれの土地ではガイドさんの説明に真剣に耳を傾け、全員見学場所の情報を聞き逃さまいとしていました。研修地での真剣な眼差しは印象深いひとこまひとつです。しかしそれと同時に自由研修も大変意義があったように感じています。学生の皆さんは非常に積極的にそれぞれ

のプランや関心にしたがって、地図を片手に町を散策し、美術館、博物館、歴史的な建造物等を訪ね、街のカフェでお茶を飲み、レストランでは食事をして、映画を見、買い物をしながら、片言のイタリア語、その他の外国語を使い、あるいは英語を自由に使ってその土地の人たちとコミュニケーションをとる機会を活用していました。異文化に触れ、時に驚き、時に共鳴し、時には内心反発し、戸惑うこともあったようですが、外国の生活に触れることができたように思えます。

この旅が願い通りに無事に終わったことに対して私の役割はとても小さなものでした。研修旅行の成功に対しては引率の教職員、医師、そして添乗員の皆さんに心から感謝しなければなりません。しかし何よりも文理学部の学生として自覚を持って行動した参加学生の皆さんに心から感謝しています。研修旅行に参加した皆さんにとってこの旅はこれから長く思い出になるものだったと思います。楽しかったこと、困ったことも全てが貴重な体験になったことでしょう。いろいろの場合に互いに協力しながら問題を解決することを学んだ人、異文化のなかでの外国語の重要性に目覚めた人、ヨーロッパの歴史的な重みに関心を持った人などさまざまでした。参加した



皆さんが旅の中で見て、触れ、感じた事柄は外国の生活や文化のほんの一部だったかも知れませんがこの体験を一つの貴重なきっかけとして広く世界に目を向けるように願っています。研修旅行に参加した皆さんにとっての本当の体験の旅はこれから始まるといって良いのかも知れません。いつかもう一度ヨーロッパを訊ねるのも良いでしょうし、書物や映画の中で旅に出会うこともきっと素敵です。そして何よりも皆さんに全員に世界に羽ばたくチャンスがあるからです。各人の志し次第ですから。

石の文化圏を旅して

安井 真也

パリの凱旋門の周りをバスで回った時の、石畳の道から伝わってきた細かい振動を覚えていますか？帰国して身近に石が少ないことを実感する毎日です。2号車では少し石の話をしましたが、建物などに使われる石材は、近くの地質を反映することがよくあります。旅行中に目にした石の種類と場所をまとめてみます。

1. 火成岩 1) 火山岩（地表に噴出したマグマ）：古代都市ポンペイの道路の灰色の敷石。ベスピオ火山の溶岩と思われました。
2) 深成岩（地下でゆっくり冷えたマグマ）：代表はカコウ岩（通称みかけいし）。意外と見ませんでした。ルーブル美術館半地階のスフィンクス。文理学部構内にはたくさんあります（百周年記念館、本館、一号館、八号館の入り口など）。

2. 堆積岩 1) 石灰岩（カルシウムの殻を持つ生物の遺骸）：アッシジの聖フランチェスコ聖堂の外壁。アイガーの山そのもの。ただしノイシュバンシュタイン城内の鍾乳洞は本物ではありません。2) 泥岩（粘土が固まったもの）：ローマのトレビの泉の周りな

どの黒っぽい石畳。どの国でもよく歩きましたね？

3. 変成岩 1) 大理石（石灰岩がマグマの熱で変化したもの）：ミロのビーナスなどの白い彫刻やミラノのドゥオーモの外壁（ピンクマーブル）など多数。2) 緑色岩（火山岩が熱と圧力で変化したもの）：フィレンツェのドゥオーモの外壁。サンピエトロ寺院やルーブル美術館の床。

個人的にはアッシジの聖堂の真っ白な石灰岩が青空に映えて印象的でした。またアイガー北壁駅では北壁をのぞける窓に驚きました。あの窓から絶壁に挑むクライマーを見てみたいものです。現地で無料配布されていたユングフラウの一般向け科学解説パンフレットの日本語訳が出ているHPを見つけました：<http://fuji3776.net/0404jung:0404jung.html>

皆さんはヨーロッパでどんな発見をしましたか？



研修報告書

堀江 秀治

早いもので、あっという間のヨーロッパ研修旅行（3週間）でした。

振り返ってみれば、2月23日の出発日当日は、おりからの季節風（春一番）が吹き荒れたために、離陸をやり直すことになってしまいました。心の中では「前途多難なことになってしまうのではないか」という不安を抱いてしまいました。

イギリスに着いたときは、予想以上の寒さに、身体が慣れるまで時間がかかりました。参加者の多くは、寒さにめげずに研修を積んだことだと思います。

イタリアのローマにおいては、歴史的状況に立会ったのではないかと思います。

その訳は、ローマ法王（ヨハネ・パウロ二世）の病気回復を祈るために、世界各国から多くのキリスト教徒信者が、バチカン市国のサンピエトロ寺院に集まっていたことです。

ベネチアでは、おりからの雪のために、現地に到着する時間が大幅に遅れ、横殴りの雪で凍てつく寒さの中を、運河沿いを蕭々と歩いて、やっとホテルにたどり着くことができました。

スイスでは、インターラーケンからユングフラウ鉄道に乗ってグリンデルワルドに近づくと、アイガー北壁が目の前に雄姿を現します。ここを人間が素手で登っていくかと思うと、驚きとともに感動が沸き起こってきました。アイガー北壁駅から屋上の展望台に登ると、ヨーロッパアルプスの山々を一望でき、更には雪山の過酷な自然を五感で捉えることができました。

ドイツのミュンヘンでは、科学立国を象徴するかのような博物館と、伝統のマイスターの技術で作られた作品等を、目の当たりに見学することができました。

フランスでは、個々に自由時間を利用して、芸術・絵画等の鑑賞を行なうことができました。

今回の研修旅行は、行く先々の国において、常に雪に悩まされたことが、強く印象に残っています。

引率者としては、参加者全員を無事帰国させることが「本務」でありますので、常に緊張の連続でした。

無事帰国できたのも、参加者全員の協力があったからであると思います。

これからは、この研修で学んだことや体験したことを、実社会や学校において、大いに役立てていただけたら良いのではないかと思います。

最後に、皆さんの今後の活躍を祈念いたします。



ヨーロッパに行ってきました…。

飯田 邦博

何が待ち受けているかわからない21日間という長丁場をみんな一人ひとりの自覚といやり、節度ある行動で実りある研修旅行になりました。ありがとうございました。

私自身初めてのヨーロッパで、文化の違いで戸惑うことも数多くありましたが、それにも増して感動の日々でした。この感動を与えてくれた、添乗員の方々、現地のスタッフの方々、国々の街で出会った人々、そしてこの研修旅行の主役の学生みんなに感謝しています。

また、パリ南大学に日本大学海外派遣研究員として一年間留学されていた化学科藤森先生には、パリを案内していただき、思い出多き時間を過ごすことができました。

帰国後、卒業を迎えて社会に巣立っていった学生、それぞれ新たな学年を迎え奮闘している学生、進路・就職を模索している学生…と様々ですが、喜怒哀楽どんなときもこの貴重な経験を糧に頑張ってください！3週間はあっという間に過ぎてしましましたが、この研修旅行でみんなと出会えたのも何かの縁。これから大切にしていきたいと思います。ときには、教務課（飯田）、就職指導課（堀江・谷口）、庶務課（高橋）に顔を見せに来てください。みんなヨーロッパに行った仲間ですから…。

しかし、楽しかったなあ！ありがとうございました！

最後に、『Europe 2005』と題して、簡易ホームページを作りました。ヨーロッパで撮った写真をアップしてあります。みんなもたくさん撮ったと思いますが、集合写真やOPツアーほか、いろいろあるのでよかったです

ら見てください。最初はこのHPは、身近に見られるようにと思いケータイ用に作りましたが、いまはPCでもバッチリ見ることができます。

ヨーロッパ研修旅行を終えて

高橋 宏明

「第21回日本大学文理学部ヨーロッパ研修旅行」。21日間の長きにわたり、5カ国14都市を巡るこの研修旅行は、学生諸君はもとより引率者にとっても大変大きな経験になることは間違いない、将来の自分自身の在り方に大きく影響するものと考えました。また、引率者としては研修期間中の様々な出来事に対応し、スムーズに研修が進行するよう心掛けました。私が主に引率を担当したのが6班。福島陽人（班長）、大竹敦子（副班長）、神田望美、清水友子、八木亜希子、小松寛人、田内あづさ、春山良子、宇佐見恭子、成舞藍、大橋ゆかり、木練奈菜美、の12名。全員が協力し頑張ってくれました。しかし、時には色々な問題に直面し悩むこともありました。皆で問題解決に向けて努力したことは、研修旅行の中での良い経験の一つではなかつたでしょうか。改めて「団体行動」の大切さを学ぶことが出来たと思います。今後、この研修旅行での経験を自分自身の武器として、大学生活、卒業後の進路に役立ててくださるよう期待しています。最後に、一番印象に残っている訪問地は？と考えると、ありません。全てが印象に残っています！そして、何より一緒に行動を共にした、皆さんのが心に残っています。グラツツエ！

ぐるぐるヨーロッパ

谷口 美津子

始まるまでは長く感じた3週間。でも終わってしまえば、とても短い3週間だったヨーロッパ研修。皆さんはどんな思い出を作れましたか？今までとは違う友達ができたり、お気に入りのグッズを見つけたりと、日本にいるだけでは、または個人で旅行に行つただけでは得られない貴重な経験をすることができたのではないかでしょうか？

私に関して言えば、今までに訪れたことのあるヨーロッパはイギリスのロンドンだけ。加えて3週間で5カ国を巡るという旅行は未知の世界で、出かける前はとても不安でした。その上旅行の約1週間前に当時流行っていたインフルエンザにかかり、のど飴+マスク+風邪薬、あと酔い止め必携で旅行に臨みました。そのお陰（？）かどうかわかりませんが、何人かがアンケートに書いていた春一番の恐怖も感じることなく、飛行機・バスではとても心地の良い睡眠時間を満喫することができました。1号車の後方の席にいた人達はバスの中で私の頭がよく通路から見えていたかと思います……。（でもこれって研修じゃないですよね？）

さて旅行自体ですが、日程的に朝が早い日も多かったにもかかわらず、全員遅刻することなく集合したり、添乗員さんの注意事項をしっかり守って、団体行動や『G』のつく人への警戒を怠らなかったりしたお陰で、大きな事件は起らずに終了することができました。本当に学生の皆さんや添乗員さん、現地ガイドさん達に改めて感謝するだけです。

ささっと訪れた場所を振り返ってみるとイギリスではケンブリッジやストラットフォード・アポン・エイヴォンを訪れ、英文学科出身の私としては、シェイクスピアの故郷に行って、個人的に満足でした。でも食事は……

微妙。

一転してイタリア。ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノに宿泊し、途中ナポリ、アッシジ、ポンペイ、ボローニャに立ち寄り、教会や遺跡、美術品などを堪能。特にミラノでは本場のサッカーを観戦しました。そして食事は……最高でした！！「星3つです！」（堺正章風）のおいしさでした。今度は一都市一都市に時間をかけてゆっくり回ってみたいですね。（でもイタリアのトイレだけはちょっと……と思いますが。）

そしてスイスでは怪しい（？）多国籍料理に始まり、ユングフラウヨッホに登り、氷点下にさらされました。ドイツでは雪と馬の○○に足を取られながらノイシュヴァンシュタイン城を目指して坂道を歩き、本場のビールを思いっきり楽しみたかったけど、翌日3時起きだったので、断念したホフブロイハウス。この2カ国には次回は夏に来たいですね。

最後の国はフランス。この頃には帰るまであと何日。「帰りたくない。」と心の中で叫んでいました。ルーヴル美術館やヴェルサイユ宮殿、エッフェル塔に凱旋門。これぞフランスという場所を巡り、普段だったら絶対歩かない距離であるシャンゼリゼ通りも3往復くらいしていました。

と、こんな感じで普段とは全く違う風に過ごした3週間。ここでは書き切れないくらいの思い出がいっぱいできました。皆さんも同じだと思います。でも思い出や学んだことをそのままにしておくのではなく、これから的生活に生かして色々なことにチャレンジしていってもらえたなら、と思います。そして一回りも二回りも大きくなった姿を私たち教職員に見せに来てください。

ヨーロッパ研修旅行

大場 繁雄

今回期間も長く、学生ツアー自体かなり長く添乗していましたので当初は86名という参加者、そして21日間、いろいろな面でかなり緊張、心配もありましたが、動きだしてみると参加した学生さん達もしっかりととしていて小さなトラブルはいくつかありました。私が心配していたいわゆる大きなトラブルもなく。全員この研修旅行を楽しんで、又いろいろ初めての経験もあり、いい面でも悪い面でも、日本とヨーロッパの習慣、常識の違い等も勉強になったようで最後のパリでのディナークルーズでの盛り上がり最高でした。

この結果を見てみると、このツアーは各自が何かをつかんで終える事が出来たのかな、と個人的に嬉しく思いました。最後に数人の学生さん達に言われた、“このメンバーでもう一度最初からこの旅行を始めましょう”という言葉がとても印象に残っています。



ヨーロッパ研修を終えて

泉本 恭子

ロンドンからイタリアを北上しイススヘ入りドイツを抜けそしてパリを訪れた21日間。

今、振り返って思い出すのは学生の皆さん の笑顔です。

文化・生活習慣や考え方などが違うそれぞれの国で過ごすあいだ、いろいろな経験を積まれたと思いますが、いつも楽しそうな姿ばかりが思い出されます。

ホテルのフロントスタッフと交渉するとき。

公共交通機関を利用して街中で出かけるとき。

食事の注文、買い物、道を尋ねる。

日本でいつも当たり前のように行っていることですが、言葉とシステムが違う国でそれらを行っていく様子。

観光バスに乗ってガイドさんの話を聞きながら街の中を回るのではなく、自分の足で目でその地を感じていましたね。

研修の日々はにぎやかに過ぎて、皆さんは通常の毎日に戻られたと思います。

社会人になられて新生活をスタートしたかたもいらっしゃるでしょう。

あの日々が思い出だけではなく、何かの始まりになればと願います。

笑顔の79名は私にとっても新しい風でした。

また先生方とドクターの研修中の気配り、心遣いに感謝いたします。

ヨーロッパ研修旅行 に添乗して

上野 友子

21日間という期間は仕事で旅慣れた私にとっても体調の管理に始まり、大きな事故なく帰国すると言うことは簡単な事ではありませんでした。しかし今回は大きな事故や病院に行ったりすることなどもなく全員無事に帰国できたことは学生の皆さん日々少しづつ強まっていったように思える自覚や努力、そして先生方のご指導あってと本当に今改めて感謝そして感心をしております。また久しぶりに学生さんと長い時間生活を共にしたことは仕事とはいえ私にとっても新鮮である可愛い妹や弟といいうようなそんな楽しく嬉しい日々もありました。皆さんは本当に素直で私たちの注意やアドバイスにもすぐ耳を傾けてくれました。そんな皆さんにとってこの21日間はどうでしたでしょうか？入学して1, 2年目の学生さんもいればそろそろ就職活動を始めようとする3年生、4月から社会人になる4年生とおりましたので研修に参加した目的も様々だったことと思います。ですが世界には色々な文化、人種、食習慣、素晴らしい芸術、建造物、自然がたくさんあるということを今の皆さん目の見て肌で感じ、味わい、そこから何か感じてもらうことがまず第一歩になり皆さんにとっての心の栄養になるのではないかと思います。今回のこの研修旅行が何かのきっかけとなって皆さん的心に響いてくれるならば本当に嬉しく思います。

21日間どうもありがとうございました。
また皆さんにお会いしたいですね。

研修旅行に同行して 羽室 貴美

今回、文理学部学生の皆様とヨーロッパ周遊21日間という、長い時間を共に過ごさせていただきました。それは私にとっても大変貴重な体験でした。

日本と異なる習慣や風景に、素直に驚き喜ぶ感受性に、私もその風景を何度も見直したものでした。また、皆さんの礼儀正しいあいさつや態度は、本当に見ていて気持ちが良いものでした。

今回のヨーロッパ研修が、皆さんにとって新しく世界を広げる一步となりましたなら、私もとても嬉しく思います。

これからも、その素晴らしい感受性を大事に頑張っていって下さい。

今回の研修旅行に同行でき、本当に嬉しかったです。またいつか、世界のどこかの国でお会いしたいと思います。



コロッセオ（1号車）



コロッセオ（2号車）



ポンペイ（1号車）



ポンペイ（2号車）



ケンブリッジ（集合写真）